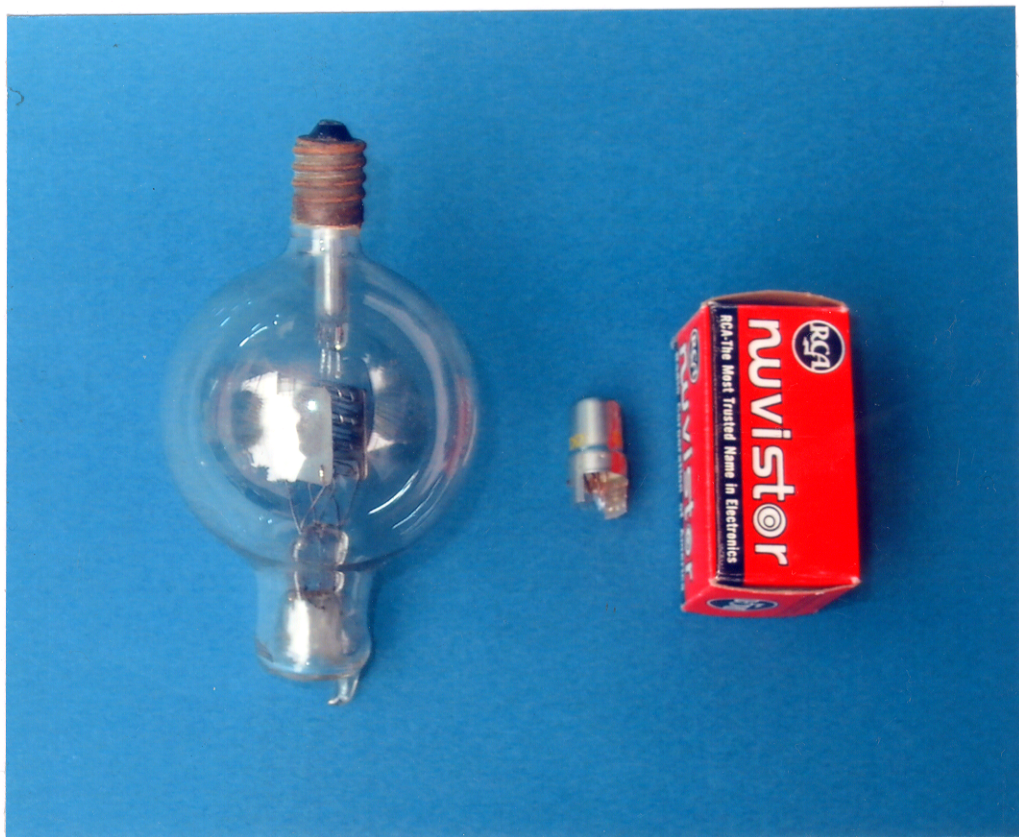


38. 真空管の世紀と共に

この写真は、20 世紀初頭に産声を上げた初の三極管オーディオンバルブと同じ 20 世紀の末に出た究極の真空管ニュービスタです。恰もこの世紀の文化の進展と繁栄を映し出しているかのように見えます。



凡そ真空管ほど生命感があって温もりに満ちたものはありません。その電極は直感的に納得の行く構造で、見ただけで特性が概ね判ります。緻密な構造の球は頭脳明晰、武骨な造りであれば動作も豪快です。送信管は逞しく、電池管はひ弱です。まさに機能美と呼ぶに相応しい技術と芸術の結晶です。

熱くなって頑張っているパワー管は SL の雄姿にも似て活力が漲っています。中にはグリッドに触られると「ブー」と文句を云う気むづかし屋もいます。

それぞれの個性・特性を認めながら育てた結果、人間は何千種もの真空管を作ってしまった。幾度となく統一・合理化が進められましたが結局定着できず更に増え続けて行きました。あたかも画一的な人間を作るわけには行かないように。

見るからにあどけないオーディオン・バルブの誕生に始まって、近代精密工業の粋ニュービスタに到る僅か一世紀にも満たなかった真空管の歴史 — その文化が丁度花開いた時に生まれ合わせることが出来たことを心から幸せに思っています。